

令和6年度 教育目標・重点目標、努力・実践事項 【評価アンケート集計結果（7月・12月の比較）】

■4(とても思う) ■3(そう思う) ■2(あまり思わない) ■1(そう思わない)

【視点1】「瓜」より「土」をつくることで見られる生徒の姿

※上段：7月 下段：12月

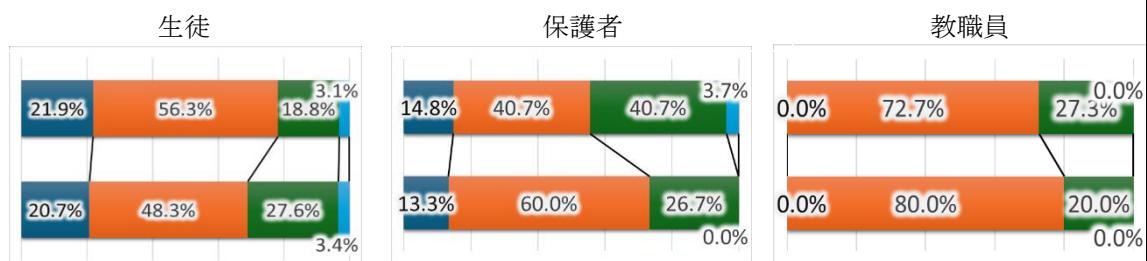
△勉強したい生徒を育てます

①授業のまとめではわかる喜び、楽しさを感じている。



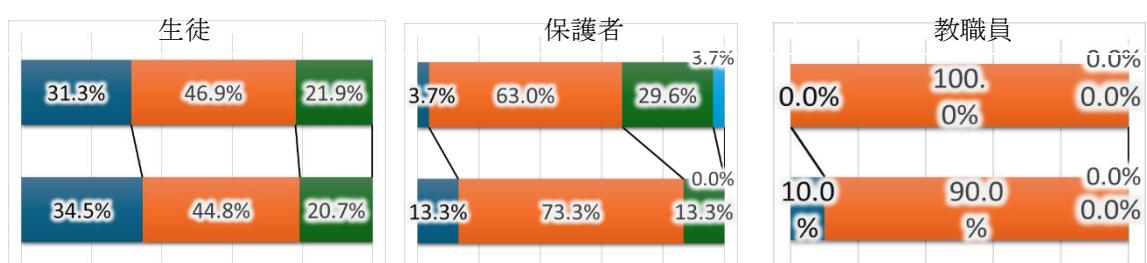
生徒の肯定意見は大きな差が見られないが、保護者・教職員の肯定意見が増加した。特に保護者の肯定的な理解が得られている。

②授業や単元毎に自分の学習状況を確認し、自ら進んで学び直している。



教職員も学び直しの機会を積極的に意識させていることにより、保護者の肯定的な意見が大幅に増加した。一方で生徒の肯定意見が減少している。

③「もっと学びたい」という意欲が高まり、各種検定試験にも積極的に取り組んでいる。

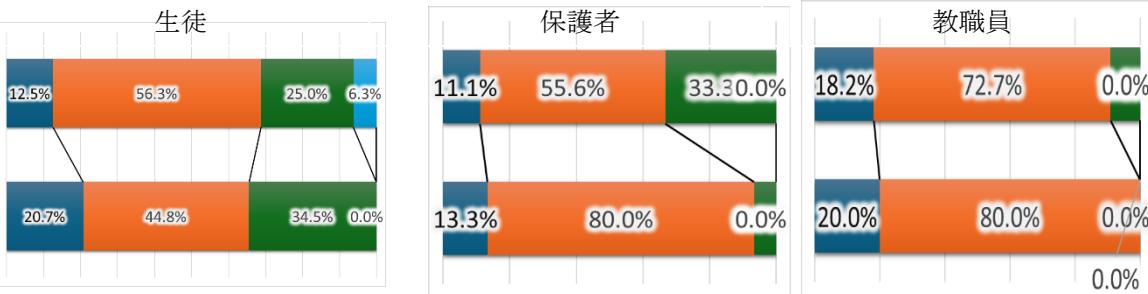


生徒の「とても思う」生徒がわずかに増えると共に、教職員の呼びかけ等により保護者の意識も高くなっている。

教員が、わかる喜びや楽しさを感じることのできる授業を意識して指導を継続してきたことにより、保護者の理解が得られたと考えられる。また、ドリルアプリや個別プリント等を活用し、個々の学習状況のチェックと個に応じたオーダーメイドの指導を進めてきたことも保護者の理解が得られてきている。生徒は、教員や保護者の様々な働きかけにより自分を客観的に見つめ、より高い目標を設定できるようになったことにより肯定意見が低くなかったと考えられる。

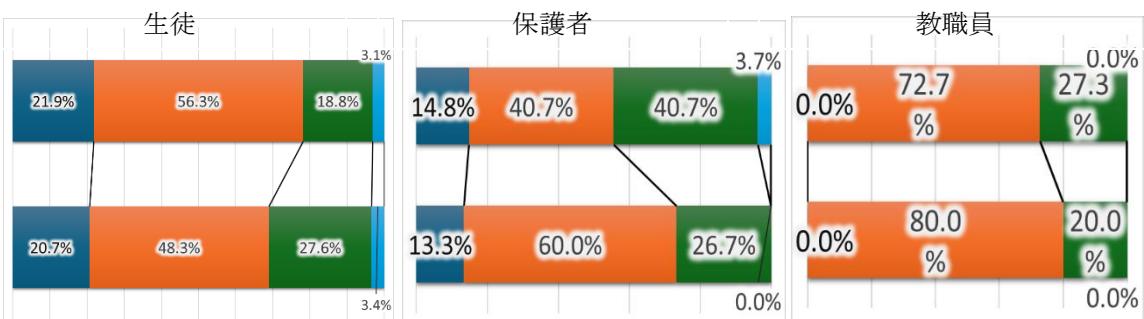
◇表現したい生徒を育てます

④教科等の学習成果発表会では、日頃の学習の成果を自信をもって発表している。



「とても思う」生徒が大幅に増加するとともに、学校の情報発信や参観機会等の設定により保護者の肯定意見が大幅に増加した。教職員も学習成果発表の機会を与え、積極的に発表会を参観したことにより、肯定意見が増えた。

⑤郷土や国際理解に興味を持ち、自分の考えを学校内外に発信している。



文化祭等の情報発信の機会に学習したことを分かりやすくまとめ発表したことにより保護者・教職員の肯定意見が増加した。一方生徒の肯定意見は減少した。

⑥文化・芸術・スポーツ分野等で活躍する方々から学ぶことで、自分の生き方に良い影響を受けている。

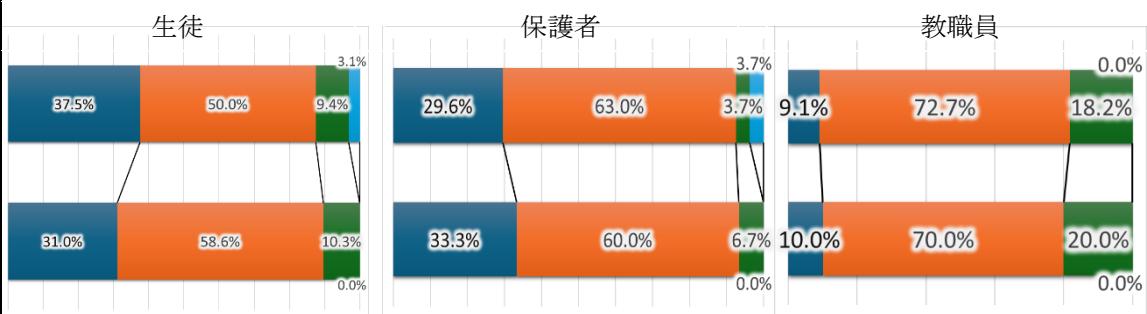


「芸術鑑賞教室」「水泳教室」「各種講演会・出前授業」等により、生徒が将来について考える機会が増えたことにより保護者の肯定意見が大幅に増加した。

各教科で学習成果の発表会の場を持ち、さらに文化祭等の学校外への成果の発信の場を有効活用し、生徒へ自信を持って情報発信できる指導を重ねてきたことにより、保護者の理解が深まったと考えられる。生徒は数多くの発表の機会を通して自信が持てるようになってきているが、それにより更なる改善点や発信方法に気づき、自分の生き方についてより深く考えられるようになったことにより肯定意見が減少していると考えられる。

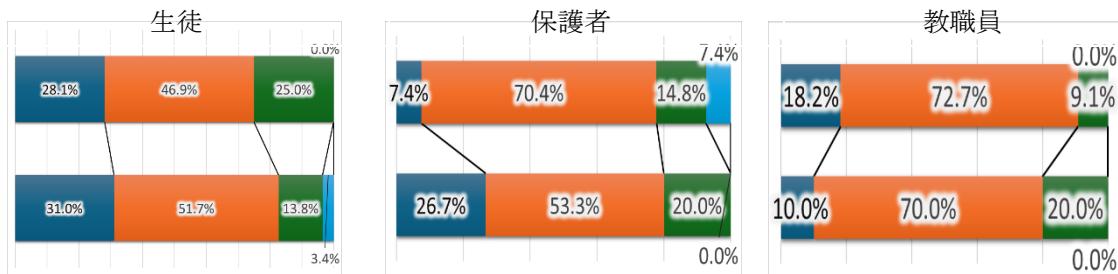
◇登校したい生徒を育てます

⑦「自分は友人や家族から必要とされている」と感じている。



生徒の肯定意見の割合はあまり変化ないが、「とても思う」生徒の割合が減少している。一方で「そう思う」保護者の割合は増加した。また生徒・保護者共に「そう思わない」割合が0になった。

⑧学年二期制の良さを感じ、充実した学校行事に満足するなど、学校が楽しいと感じている。



生徒・保護者ともに、二期制について良さを実感し充実した学校行事に満足する回答が増加した。教職員は、長期休業前の7月・12月の行事が増加したことにより行事の事後指導や休業前の事前指導に反省点があげられた。

⑨積極的に生徒会活動に取り組み、より良い学校生活を送ることができている。



「とても思う」割合が全体的に低くなった。生徒数の減少により、一人一人の役割が増えたため、全ての活動を今まで通りできなかったことも一因と考えられる。

生徒・保護者共に二期制の良さを感じ各行事に満足しているが、各行事や生徒会活動など各活動につながりを持たせ指導できるような一層の配慮が必要であると考えられる。そのために、現在の生徒活動を再検証し、精選して教育活動にあたる必要がある。また、生徒の頑張りや良い面を賞賛できる場面を継続して設定していきたい。